

日本小児看護学会第 29 回学術集会：テーマセッション 10(小児看護政策委員会)

「地域における虐待予防と支援・連携を考える」参加者アンケート結果

開催日時：2019 年 8 月 4 日（日）10 時 40 分～12 時

1. アンケート回収率

アンケートはグループディスカッションの参加者に配布した。

話題提供参加者数：約 95 人

グループディスカッション参加者数：46 名

回収数：38 枚（82.6%）

2. アンケート回答者の属性

1) 職種

参加者の職種は看護師(73.2%)、保健師(12.2%)、看護教員(4%)、助産師(9.7%)の順で多かった（表 1）。

表1 職種

n=41

職種	人数 (%)
看護師	30(73.2)
保健師	5(12.2)
助産師	2(4.9)
看護教諭	0(0)
看護教員	4(9.7)
その他	0(0)

重複回答3名

2) 所属施設

参加者の所属施設は、総合病院(34.2%)が多く、次に教育機関（看護系大学）(18.4%)、小児専門病院(13.2%)、大学病院(13.2%)、の順で多かった（表 2）。

表2 所属施設

n=38

所属施設	人数 (%)
小児専門病院	5(13.2)
大学病院	5(13.2)
総合病院	13(34.2)
教育機関（看護系大学）	7(18.4)
訪問看護ステーション	2(5.3)
診療所	0(0)
保健所/保健センター	3(7.8)
その他（児童養護施設）	2(5.3)
その他（保育所）	1(2.6)

3) 配置場所

参加者の配置場所は病棟(57.6%)が多かった。その他(24.2%)の回答について、具体的な配置場所の記載について、医務室の記載があったが、その以外の配置場所の記載はなかった（表 3）。

表3 配置場所

n=33

配置場所	人数(%)
病棟	19(57.6)
外来	6(18.2)
その他	8(24.2)

未回答7名、2名重複回答2名

4) 経験年数

参加者の経験年数は10年以上20年未満(45.9%)、5年以上10年未満(24.3%)、20年以上(21.6%)の順で多かった(表4)。

表4 経験年数

n=37

経験年数	人数(%)
5年未満	3(8.2)
5年以上10年未満	9(24.3)
10年以上20年未満	17(45.9)
20年以上	8(21.6)

未回答1名

2. テーマセッション参加理由

テーマセッションの参加理由は、臨床で虐待に関わっている、虐待への対応に悩む、病院・地域での看護実践に活用したい、知識を深めたい、虐待に興味がある、であった。

1) 臨床で虐待に関わっている

参加者は院内の虐待対応チームやペアレンティング・サポート委員会に入っている、日ごろから虐待や要支援ケースに関わっているという理由で参加していた(表5)。

表5 臨床で虐待に関わっている

	記載内容
①院内の委員会等で虐待にかかわっている	日頃から虐待だけでなく、要支援ケースに介入することが多く、予防的なかわりとして健診フォローを行っているため
	院内の虐待対応チームに入っており、様々なケースや課題に直面するため、何か解決策があればと考えたため
	院内のペアレンティング・サポート委員会に所属しているため、虐待について学ぼうと思った
②業務で関わっている	業務で関わるため
	虐待にかかわっているため
	通常業務で常に考えさせられている

2) 虐待への対応に悩む

参加者は臨床で出会う家族に悩むことや気になる事例があるがどのように対応したらよいのかわからない、院内で虐待への対応ができていないことから、テーマセッションの内容を参考にするために参加していた(表6)。

表6 虐待への対応に悩む

	記載内容
①虐待への対応がわからない	NICUの退院調整専任看護師として出会う家族に悩むことが多い
	NICUに入院している子どもをもつ家族の育児サポート状態を確認しつつ、退院へ移行しているが、気になる事例にどのように対応したらよいかわからなかったから
	虐待で悩むことが多かったため、何か参考になればよいと思った
	子どもを守れていないジレンマ
②虐待への対応ができていない	病院に虐待対応チームがないのでどのようにしたらよいかわからない
	救急外来の看護師はあまり虐待に関心がないのでそこをどのように対応できるかを考えたかった

3) 病院や地域での看護実践に活用したい

参加者は病院や地域での虐待への対応、地域での支援、地域との連携、虐待を予防するために自分ができていることを考え、病院・地域での看護実践に活用するために参加していた(表7)。

表7 病院・地域での看護実践に活用したい

	記載内容
①臨床での虐待への対応にいかしたい	知識を深め、臨床にいかせるようにしたい
	助産師として妊娠中からのかわりを考えたいと思ったため
	いろいろな立場やケースの意見をきくことで、今後の訪問につなげたいと思った
	母子とのかわりのなかで気が付いた時にどのように対応できるか知りたかった
②地域での支援を考えたい	地域での支援として何かできないかと思い参加した
	虐待についてどのような地域支援ができるのかを知りたいと思った
	自分が地域に出てみて思った以上に虐待の一手手前(不適切な養育)の家庭がたくさんあり、多方面からの支援を必要と感じたので、ほかの方々の経験を聞きたいと思った
③地域連携の方法を知りたい	保育所・子育て支援センター、母子保健にかかわる中で、病院の小児看護の方と連携をするのはどうすればよいか知りたかったため
	地域連携について新たな知見を得たいと思った
	地域連携を考えたい
	どのようにつなげるか
	さまざまな連携が必要なことなので(特に行政・地域・福祉・医療・教育)
④虐待を予防するために自分ができることを考えたい	退院後に虐待されるケースが時折あるので、予防についてのヒントをもらいたいと思った
	地域で虐待予防のために自分ができることは何か
	今まで虐待で入院する子どもをたくさん見てきたので、自分にも何かできないかと思った
	保健師をしていて、児童虐待で傷つく子どもを見てきた 近年も児童虐待のニュースが多くみられていてどうにかできないか、何か解決できる方向へ向かえないかと思ったから
	病院中の子ども安全システムの構築を考えたい

4) その他

その他として、虐待に関する知識を深めたい、虐待が問題になっているので興味をもった、という理由があった(表8)。

表8 その他

	記載内容
①虐待に関する知識を深めたい	自分の勉強になると思った
	虐待における新しい知見を得るため
	虐待対応について様々な視点をもraitたいと思った
	虐待の支援と対応について具体的な案を学びたかった
	虐待・地域・支援・連携を知りたい
②虐待に興味がある	虐待について考えたかった
	虐待事例が増えているため
	虐待が問題になっているので、小児看護政策委員会としてこのような取り組みをしているという内容が聞けるのかなと思い参加した
	興味があった
	多数のう蝕から児童相談所につなぐケースがあり、興味をもった

3. テーマセッションについて

1) テーマセッションの満足度

テーマセッションの満足度について、満足した・ほぼ満足した・あまり満足しなかった・満足しなかった、の4つで質問した。満足した(50.0%)とほぼ満足した(44.7%)で94.7%であった。満足しなかったという回答はなかった(表9)。

表9 テーマセッションの満足度

	人数(%)
満足した	19(50.0)
ほぼ満足した	17(44.7)
あまり満足しなかった	2(5.3)
満足しなかった	0(0)

2) テーマセッションの感想等

テーマセッションの感想等について、虐待の現状や情報の共有、グループディスカッションでの学び、臨床での看護実践への応用、について意見があった。

(1) 虐待の現状や情報の共有

様々な事例が提示されたことにより、虐待の現状や情報の共有、同じ思いを抱えている医療者のジレンマを共有することができたといった記載があった(表10)。

表10 虐待の現状や情報の共有

	記載内容
①現実を理解することができた	いろいろな事例が聞けてよかった
	病院、訪問看護、NICU、保育所、それぞれの立場から虐待ケースと向き合っている現状を知ることができた
	参加された方々それぞれにすごい事例を経験していた
	子どもにかかわる他職種の方々の体験談や考えを聞くことができてよかった
	様々なケースや悩みを聞くことができてよかった
②情報収集ができた	ほかの施設の対応の仕方を聞くことができた
	退院後の子どもと家族の事例を知ることができた
③ジレンマや気づきを共有することができた	同じ思いを抱えている医療者のジレンマを聞くことができた
	皆さんの気づき、ジレンマ、すべて共感できた
	共有化ができた

(2) グループディスカッションでの学び

参加者は他の参加者の事例や対応を聞くことで勉強になった、考える機会になったといった記載があった(表 11)。

表11 グループディスカッションでの学び

	記載内容
①参加者の意見を聞くことができ勉強になった	各地域、さまざまな職種からのケースや対応が聞けたのは勉強になった
	さまざまな立場で児童虐待に立ち向かおうと、子どもを救おうと、親の力になろうとしている皆さんとお話ができ、とても勉強になった
	グループの話で地域連携の事例があり、勉強になった
②臨床でできることを考える機会になった	たくさん悩みを共有でき、今の臨床で何ができるのかを考える機会になった
	もっと虐待についての教育(親への対応等)をして不幸な思いをする子どもを減らしていけないといけないと思った
③視野が広がった	視野が広がった
	それぞれの立場の方々が体験されたことがきけるのは自分にとっての新しい視点につながった

(3) 臨床での看護実践への応用

グループディスカッションにより、状況分析の必要性や虐待予防の重要性を感じた、病院のシステムについて考えることができたといった、看護実践への応用についての記載があった(表 12)。

表12 臨床での看護実践への応用

	記載内容
①状況の分析の必要性を感じた	皆さんの実際の経験をお話くださり、複数の目でみることで、振り返りの時間を作ることが大切だと思った 「気になる親・気になる子ども」は流さずに足を止めて状況を分析することが大切だと思った
②虐待予防の重要性を感じた	子どもの成長や虐待による影響を考えると、やはりいかに病院でも予防を強化すべきか、していくべきかが重要であると思った
③多職種での協働の必要性を感じた	親の支援については、点で関わるのではなく、地域の多職種で育児支援をしていけるようにしたい 傾聴すること、情報共有の大切さを考えた 看護師だけでなく、医師や他施設の方とも話をするなど、あらためて連絡の必要性を感じた それぞれで母子を見守っているが、母子の現認やどの機関が一番進捗状況を管理しているのかを明確にする、各機関との顔の見える関係づくりが必要だと思った
④システムについて考えることができた	病院のシステムの見直しにあたり、地域性やそれぞれの職種も役割や専門性を踏まえて考えてみたいと思った システムが出来上がっているの次は質を保証していかなければならない 次につなげることについて、具体策には課題があると思う システムを利用するなどがあると思う
⑤臨床で役立つ意見をもらえた	いろいろな事例や方向性を示唆してもらえてよかった グループのメンバーからアドバイスをいただいた
⑥介入の難しさを感じた	何か起きてからの対応は構築されてきているが、「気になる」「何か心配」「今後何かが起こるのではないか」という場合の介入の仕方に迷う 地域の保健センターへ連絡するが伝えるのが難しい 発達障害や精神疾患のある母親の子育てが増えており、介入の難しさを知った

(4) テーマセッション全体について

テーマセッション全体について、運営方法やグループディスカッションについての記載があった。グループディスカッションの時間についての記載があり、満足した、ほぼ満足した、あまり満足しなかったとすべてにおいて、ディスカッションの時間が短かったことの記載があった(表13)。

表13 テーマセッション全体について

	記載内容
②運営について	ファシリテーターは必要だと思う 最後の意見交換はいらなかった 積極的に討論ができて有意義だった グループディスカッションではいろいろな立場の方の意見が聞けてとても有意義だった 講義・グループディスカッションで具体的な事例を用いて考えることができてとてもよかった
②グループディスカッションの時間について	各々の事例の説明をするだけになり、ディスカッションをする時間がなかった グループディスカッションの時間が足りなかったため、不完全燃焼だった もっとコアで話せたらよかった 最後までグループディスカッションがしたかった ケースがどれも深いので、時間があればよかったと思った グループディスカッションが短かった グループメンバー数が多いのでは？ (十分にディスカッションができなかった？) もっと話したかった ディスカッションの時間がもう少し長いとより深まると思った

4. 小児看護政策委員会への要望や意見

1) ディスカッションの内容について

親が要支援のケースについて、行政や児童相談所とのセッションを希望する意見があった。

2) 診療報酬について

地域との会議実施による診療報酬がとれるようにしてほしい、との意見があった。

3) その他

新生児学会、産婦人科学会など、他の学会との連携について意見があった。